



うばやま

No.16

令和7年1月25日
校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/kashiwai-sho>

後悔しないために、防災に係る当事者意識を高める



自然災害や事故などの発生確率を比較する資料を見ると、台風が通過する確率は100%。その台風での被災率は0.48%で、大雨での被災になると0.5%といわれます。火災は1.9%、交通事故での負傷になると24%、交通事故で死亡に至っては0.2%まで下がります。航空機事故での死亡になると0.002%といった低い確率です。

一方、南海トラフ巨大地震が今後30年以内に発生する確率は、最新の発表で「60～90%程度以上」または「20～50%」といった複数の数字で示されるようになりましたし、首都直下地震(M7クラス)は、70%程度とされます。これらはあくまでも目安ではありますが、上述の割合と比べると極めて高く、決して安全とは言い難いものがあります。

その昔、関東地方をM7.9の地震が襲い、死者・行方不明者は10万人を超えるました。家屋倒壊や火災で甚大な被害を及ぼしたこの災害は、約百年前の1923年9月1日正午少し前のことでした。時を経て昨年、元日から能登半島地震(M7.6)、8月に日向灘地震(M7.1)と続き、今年の7月終わりにはカムチャッカ半島沖地震が発生しました。2千キロ離れた九十九里沿岸まで津波注意報が発令されました。また、富士山の噴火のシミュレーション動画にも危機感を覚えます。

少し前になりますが、防災教育実践研修会に参加しました。元東京大学地震研究所所長や気象庁職員、千葉科学大学学長の話を聞きながら、初めて知る事柄に惹きつけられていくのです。5時間の座学でも、睡魔に襲われませんでした。マグニチュードが0.1違うだけで、地震エネルギーは1.4倍になるそうです。0.2で2倍、1違うと32倍といい、空間的広がりというか影響範囲もそれに準ずるわけですから、驚きとともに認識を新たにせざるを得ないことを実感しました。

併せて、震災への備えと学校における防災リテラシーの大切さも実感しました。想定外・不測の事態に直面した場合は、「最悪の結果を回避する決定」を迅速に行なうことが求められます。その判断の主体は校長であり、その意思決定の下で「後悔しないこと」をキーワードに行動できる組織でなければなりません。大切なのは、「自分と大切な人の両方を守ること」という防災の目的を胸に、主体的かつ臨機応変に対応できることではないかと考えます。

大人も子供も、リスクを自ら調べて知ることや自分の頭で考えて避難訓練等に参加することは極めて大切です。災害時には中高生はもとより、小学生も地域の力となって動くことが求められるかもしれません。ですから、まずは関心をもつこと、そして当事者として考えようとすることが、今一番必要とされているように思います。在宅時・登下校中・放課後など、いろいろなシチュエーションに自分の身を置いて、足りないものは何かを家族も一緒になって話題にするなど、心の準備も怠らないようになたいものです。

来年2月28日(土)に柏井地区で予定されている防災拠点訓練に参加したり、防災気象情報や「ヰキクル」の活用のほか、「防災ゲーム・クロスロード」を家で取り組んでみたりするなど、平時から意識を高め、できることに家族で取り組んでいきませんか。後悔しないために…。

【12月の行事予定】

※丸数字は学年を表します

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
		スクールカウンセラー 勤務日	委員会活動 ノー残業デー 留守番電話 17:00	朝会 保護者会 ①②③④⑤⑥	オンライン保護者会 ④⑤⑥	
7	8	9	10	11	12	13
		被爆体験講話⑥	不審者対応訓練 クラブ活動 ノー残業デー 留守番電話 17:00	ティンカーベル 教育相談日(1) 下校 14:15	教育相談日(2) 下校 14:15 防災拠点会議	
14	15	16	17	18	19	20
管弦楽 フェスティバル	教育相談日(3) 下校 14:15	芸術鑑賞教室 教育相談日(4) 下校 14:15	ノー残業デー 留守番電話 17:00	4校時日課 下校 13:15	給食最終日 五中B特学 X' mas 下校 13:15	
21	22	23	24	25	26	27
	3校時日課 下校 11:35	終業式 下校 11:35	冬季休業 (~1/5)	学校閉庁期間 (~1/4)		
28	29	30	31	1/1		
			大晦日	2026年元日		



校長室のテーブルに芳香剤を置いてあります。ウッド系や柑橘系など、気分によって交換しますが、部屋の入口で「なんかいい匂いがする」とつぶやく子がいます。逆に、慣れによって感じなくなってしまっている自分に気づかれます。また、3年を経過した車でも、「まだ新車の匂いがする」と久しぶりに助手席に座った人が言いますし、それぞれの家に足を踏み入れた時の匂いは、家人が思っている以上に他人は敏感に察知している気がします。

8月下旬、におい物質に関する調査結果が公表されました。これによると、衣料品の洗剤や柔軟剤に含まれる香料の人工化学物質により、小中学生の1割が学校で頭痛や吐き気などの症状に陥った経験があると回答したといいます。このように香りを原因とする体調不良は「香害」と呼ばれ、これが原因で発症する「化学物質過敏症」への認知度も近年高まりつつあります。

私は、石鹼の香りがする制汗剤を好んで使用しましたが、これが原因で具合が悪くなる人が少なからずいるという認識が必要です。学校給食の白衣に付いた香料に顔をしかめる子がいるかもしれません。今年度1回目の学校評価でも、それを心配して「各自エプロンが必要に応じて割烹着貸し出しなど、全員使い回し以外の方法を検討していただきたい」という声が寄せられ、『うばやま13号』で紹介しました。

公共施設や学校、病院などで対策を講じることが求められます。まずは、知ることが第一。そのうえで、給食の白衣を洗濯する際の香料入り洗剤や柔軟剤の使用をしない、あるいはエプロン持参を話題にしたいと考えます。そのときは、どうぞご協力をお願いします。

